

としょかん宇治

No. 20

1990年2月1日 発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20) 1511



< 冬の宇治橋風景 >

私と読書

宇治市図書館協議会委員

永野 玲 子

「本って不思議な力をもった魔術師みたい」
 こんなことを感じたことはありませんか？
 涙があふれ出したり、微笑み出したり、「そ
 う、そうなのよ」と叫ばずにはいられな
 ったり、勇気づけられたりと、まだまだ……
 いろんなことを仕掛けてきます。そして何
 りも心を満たしてくれます。

日々雑多な生活の中であって、素朴に多く
 を語らない昔話、童話、絵本のたぐいが以前
 にも増していとおしく感じるようになりまし
 た。斉藤隆介の「花咲き山」は、失いたくな
 い優しさがいっぱい秘められていて、理屈ぬ
 きでお薦めしたいひとつです。

又、最近では仕事をもった主婦の生活体験
 を基にしたものが沢山出版されています。そ
 の元気のエキスだけをとって、わたくし流に
 消化し、楽しく生かしています。

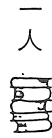
一九九〇年の新春を迎え、多くのものを吸
 収し、いつも生き生きと輝いていたもので
 す。



お知らせ



中央図書館では、一月から貸出冊数が



一人五冊まで借りられるようになりま



した。期間は今までと同様、三週間です。

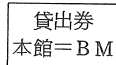


また移動図書館でも、



コンピュータ

による貸出となりました。貸出券は



共通券に

なりますので、どこでも借りて、どこでも返



すことができます。ずいぶん便利になりました。

それから、中央館では一月から、



カ

セットブックの貸出もはじめました。



本と同

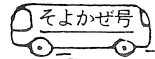
じょうに借りることができます。

平成時代の新しい図書館として、皆さんのくつろ

ぎの場として、益々利用をお待ちしています。

はしれ!

そよかぜ号



「ピーツ」と車内にひびく番号。

一月から、コンピュータによる貸出に切りかわったのです。小さな端末器で

すが、本の貸出、返却データを記録し、中央図書館のコンピュータと連携した情報管理ができるようになりました。

「前回に借りた本の題名がわからないのですが?」とたずねられても、今までは回答できませんでしたが、コンピュータの採用により可能となりました。又、予約の本も確実にチェックできるので順番待ちの場合もありますが、より早く用意できます。

「便利になったわね」と、言ってくださる利用者の声を励みに、身近な図書館として、もっともっと利用されるように努力していきたいと考えています。

さて、そよかぜ号では、最近、子どもたちの利用がふえています。市内、二十五カ所の駐車場のうち、十一カ所は小・中学校の敷地を借用していますが、そのひとつ伊勢田小学校は、担任の先生に引率された低学年が、一冊、二冊と

借りていたり、沢山の本が入った手さげ袋をもって友だち同志で利用する中・高学年など、とりわけ多くの子どもたちが利用する駐車場です。

「この本、おもしろかったで。」
「今、勉強していることがのってる本やわ。」

ワイワイガヤガヤと楽しそうに、子どもたちは読みたい本を上手に選びだして借りていきます。大人の利用が多い駐車場にくらべると、一段とにぎやかで、こみあう車内風景です。

子どもの心を豊かに育み、あくことのない知識欲をみたくしてくれる本の世界。子どもの身近に本があり、自分で読みたい本を選ぶことは、読書の楽しみを知る第一歩となることでしょう。

そよかぜ号には、絵本やよみもの、知識の本が、約一二〇〇冊積みこまれています。

今回のコンピュータによる貸出への切りかえで、子どもだけの利用もしやすくなりました。

本と人とのステキな出会いを願って、市内を走るそよかぜ号をどうぞお気軽にご利用ください。



〔質問〕

「紫式部文学賞」が創設されましたが、女流文学賞には、どのような賞がありますか。

〔回答〕

女性だけに与えられる文学賞は、それほど多くありません。小説では、

◎『日本文芸大賞』のなかの

・『女流文学賞』

・『女流文学奨励賞』

・『女流文学新人賞』

(日本文芸振興会)

◎『女流文学賞』

◎『女流新人賞』

(中央公論社)

◎『女流短篇新人賞』

(小学館)

ご存知ですか？



〔質問〕

全国植樹祭が宇治で行われるそうですが……。

〔回答〕

第二次大戦後、荒れた国土に豊かな緑をとり戻そうと、昭和二十五年山梨県で第一回の「植樹行事及び国土緑化大会」が開催されました。のち昭和四十五年に「全国植樹祭」と改称され、緑化運動の国民的行事となっています。

第四十二回全国植樹祭(愛称・京都みどりの祭典)は、京都府等の主催で、平成三年五月に宇治市の太陽が丘で開催されることになっています。大会テーマは『緑で

うめたい地球の未来』で、天皇・皇后両陛下もご出席になり、記念植樹されます。

京都府ではこの祭典を契機として、緑とアメニティ豊かな京都づくりをめざしていく方針です。主会場となる宇治市では、大会に関わる都市づくりをおしすすめ、市政四十周年にむけた「植物公園」の建設を予定しています。

来年の全国植樹祭は、府・宇治市にとっても、新しい時代へのステップとなるでしょう。

を読むには、格好の場所となるからです。家の中では、家族の誰かが話しかけてきたり、電話が鳴ったりで、どうしても中断してしまいます。休みの日にはこの本を、と思って借りても、結局数ページしか進んでいない事が多いのです。だから私は、電車で出かけるのが楽しみです。できれば少し遠くへ……。本に熱中し、グッと引きつけられている時に、電車が目的の駅に到着すると残念で、降りるのがイヤになってしまう。何のために電車に乗っているのかと、ふと、おかしく思うことがあります。

車内で本を読んでいる人は、結構多いです。その中で、パーコードのついた本に、お目にかかることがあります。チラッとラベルを見て、青色だと「うちの図書館の本では」と親近感をもったり、他の色だと、どここの図書館の本かしらと思ってしまう。宇治市中央図書館の本たちも、各家庭の中

さんぽみち

電車に乗って出かける時、私はバッグの中に、必ず一冊の本を入れていきます。電車の中って(満員電車は別として)案内、自分ひとりきりになれるもので、本

だけでなく、こうして電車で遠出をしたり、いろんな街の空気を吸ったりして、図書館へ帰ってくるのだから。それを何回も、何十回も繰り返している。そう思うと返却カウンターに積まれた本たちに、一冊一冊「おつかれさま」と声をかけたい気持ちになります。本それ自体は、いろんな所へ連れていかれ、いろんな体験をしますが、その本の中に詰め込まれている内容は、又ページを開くと飛びだしてくる活字は、読む人、ひとりひとりの心の中を、旅してくるのでしょうか。そして、何かをその心に残して。

ある人が言っていました。「読むことは『心を耕すクワ』と言える。実は、本そのものの中に、知恵や幸福があるわけではない。本来それらは全部、自分の中にある。しかし読書というクワで自分の心、頭脳、生命を耕してこそ、それらは芽を出し始める。」と。私も肥料の気のないヤセた心の田を、豊かな心の田となるように……。さあ、本をバックに入れて、何処へ出かけようかしら、電車に乗って。



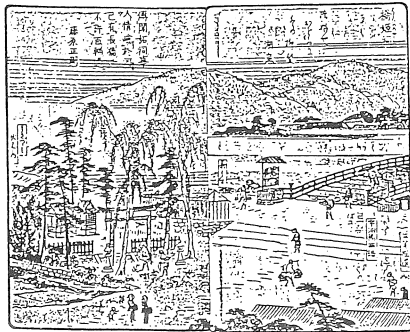
郷土のはなし

宇治の橋姫

橋姫とは橋の守り神です。橋の守護神は古来より女神とされ、古くは宇治橋の三之間に祀られていました。

宇治の橋姫は、古来多くの歌に詠まれ、幾多の伝説が生まれています。二つの話を紹介します。

『むかし、宇治の橋姫が磯の若布を食べたいというので、夫は伊勢の海へ行くが、誤っておぼれ死んだ。待てど帰らぬ夫の身を案じて、橋姫がたずねていくと、夫の霊が現われて、事の次第を物語って消えたということです。その



橋姫社 「宇治川兩岸一覽」

時夫が詠じた歌が、さむしろに衣かたしき今宵もや我を待つらむ宇治の橋姫 (古今和歌集)

という有名な歌です。』

『むかし、都のある公卿の女が男の心変わりをうらみ、生きながらにして鬼となって報復したいと貴船神社に願をかけた。そして神示に従って、鬼の姿となって二十一日の間、宇治川の水につかっていると本当に鬼となってしまったといひます。それが宇治の橋姫だということです。』

二つめの話のように、橋姫は嫉妬の神として知られ、橋姫神社は古来縁切りの神として悪縁を絶つのに霊験があるといわれ、今なお婚礼や縁組みにあたっては、社前を避けて通るといふことです。

しかし橋姫とは、「愛し姫」に通じるもので、本来愛する女のことをいふのです。

「我を待つらむ宇治の橋姫」は嫉妬でなく、橋の守り神として、また想う人待つ愛しき姫といえるのではないのでしょうか。

さむしろや待つ夜の秋の

風ふけて

月をかたしく宇治の橋姫

(藤原定家)

利用案内

中央図書館の

開会時間は9時～17時までです

休館日は 月曜・祝日・月末日

年末年始です

移動図書館の

巡回日、時間は「市政だより」の1日

号をみるか、直接図書館におたずね下さい

貸出は

一人5冊まで借りられます

貸出券は、中央図書館・移動図書館のどちらでも共通に使えます

中央図書館は3週間以内に、移動図書館は次回巡回日に返して下さい

編集後記

◆ 昨年十二月に予定していましたが福井謙一氏の講演会は、講師の病気のため中止となりました。申しわけありませんでした。

◆ 総理府の調査によると、この一年間に一冊も本を読まなかった人は三一%。読まなかった理由で一番多いのは、「時間が無い」。逆に本を読んだ人の割合は、前回よりも多くなっているとか。

「週休二日制の導入などで読書をするゆとりができたため」と総理府ではみています。

◆ 九十年代は個性化の時代だともいわれています。仕事でも、たった一度の人生でも、時間に追われるのではなく、自分の楽しみみの時間(遊び)をいかに持つかが、これからの時代かもしれない。またそれが、活力となるのでしょうか。生涯学習の場としての図書館もそれらの場として、またくつろぎの場でもありたいと思います。